

日本聖公会 ウイリアムス 神学館ニュース

神学校と「楽しさ」

司祭 黒田 裕

前任地を離任する際、その教会信徒である、九州教区・中島朝司祭のご遺族から同師の自伝的冊子『永遠の泉を求めて』を頂いた。そこには大正末期から戦後という激動期にかけて、困難の中にあっても主の恵みに感謝しつつ献身する一伝道者の生涯が活写されていた。そのなかに創立間もない福岡神学校（1920年から1953年）の様子が登場する（同師は1924年に入学されている）。

まず注目したいのは、教育課程として組織神学、心理学、新約学、ギリシア語、音楽、英会話等のほか証拠論（※キリスト教の正当性を論証する一種の「弁証論」か）、教授学やインド哲学といった科目まであったことである。他方「夜は十一時、十二時まで」も「皆良く勉強し」、「神学生は一般の学生と大分違うなと思」ったこと、「月曜は休業」といったところは今と変わらない。日曜の教会実習から帰り夕食後には「机を囲んで、色々な問題を捕らえて、議論を戦わせ、翌朝五時頃までも語り合ったものので「私自身の神学校時代を重ねて懐かし

2018年
第99号

The Bishop Williams
Theological
Seminary NEWS
日本聖公会
京都教区
発行・編集人
黒田裕
〒602-8011
京都市上京区烏丸通
下立売上る楼鶴門町380
☎ 075(431)5406
FAX 075(431)5445
Williams@ruc.
biglobe.ne.jp
寮 ☎ 075(431)5408

く思いつつ、現在は諸状況が異なり、同じようにはいかないなど思わざるをえなかった。夏季伝道では、例えば種子島といった各伝道地に遣わされ礼拝はじめ日曜学校や青年会で奉仕し、「休みが済んで、神学校に帰って来ると、派遣された教会の信徒、青年会等よりお礼の手紙がくるし、これも嬉しいもの」だった。路傍伝道もあり「皆で聖歌を歌っていると、多くの人が集まってくる。その人たちに向かって、キリストの証をする」。そして、「このような事を繰り返している間に、いつの間にか三年間は過ぎてしまつて、いよいよ卒業の日となつてしまいました」、と締められている。

90年以上前のごことでありながら案外現在との共通点が多いことに驚かされるが、もちろん相違点もまた、ある種の羨ましさと共に、挙げることが出来る。ただ興味深いのは、そうした描写の所々で「神学校は楽しいところでした」とあることだ。私自身の神学校時代も、勉強の大変さに加え寮生活の人間関係に悩み、その上任意の活動や学びにも参加していたため精神的・体力的にはきつかった。しかし今思い返すと、神学校生活は「楽しかった」と言うほかない。どんなにしんどくても、意味の詰まった濃密な時がそこにあったからであろう。

そういう意味で神学校は、時代は変われど、「楽しいところ」であり、また、そうあるべきところなのだろう。大変残念ながら2018年度は新入生がない。しかし、教職員、在校生たちとそんな学校生活を創り上げると同時に、この「楽しいところ」で共に学ぶ仲間が与えられることを切に祈り、待つ一年としたい。

（館長 くらだ ゆたか）

ウイリアムス主教が、約半世紀に及ぶ我国での宣教活動を終え、米国へ帰国されたのは、今から110年前の春のことであった。

「信者集まりません、牧師失望します。しかし、一人二人信仰に充ちて礼拝に集まります。天の使賛美します。キリスト喜びます。神様天に喜ばれます」。日本を去る数日前にウイリアムス主教が、当時司牧されていた京都聖ヨハネ教会の説教壇から語られた言葉である。ウイリアムス主教は、この数日後に、誰にも知らさず、何物をも持たず、独り日本を去って行かれた。

「最後の主日礼拝の後、帰りゆく信者の後ろ姿を見送りつつ祝福を与え黙祷をささげつつありし老師の姿を、吾等は聖堂玄関に入ることに描きたきものである」。当時の京都聖ヨハネ教会の信徒はこのように記しておられる。

私たちにとって、道なる主イエス・キリストを伝えることは、始終己を誘惑して止まぬ自己顕示欲との闘いである。いかなる時にも神と共にあり、目立たぬところで静かに人々のために祈り、労いの言葉や見送りを求めることなく、ひっそりと日本を去って行かれたウイリアムス主教。「道を伝えて己を伝えず」というウイリアムス神学館の精神を、大切に受け継ぎながら、2018年度を歩んでいきたい。

（主事補 麓 敦子）

2017年度卒業礼拝

主よ、助けてください

3月16日(金)午前11時より、京都教区主教座聖堂(聖アグネス教会)にて、2017年度・卒業礼拝(卒業証書・修業証書授与式)が行われました。前頁にあるように卒業生はヒューム・ユーン神学生、修業生は永野拓也神学生です。当日はあいにくの曇り空、時おり小雨がぱらつきましたが、70名を越える方々が列席くださいました。

説教の中で小林尚明・神戸教区主教は、冒頭で、神学生たちが優しく心のこもった指導を受けられたとして神学館への謝意を示された後、次のように語られました。
——司祭になると何かと「お山の大将」となりやすく謙虚さが失われてしまう。何でもいから学んで、それを通して謙虚さを身につけてほしい。神学校は勉強の仕方を学ぶところであり、それがひいては現場で起こる問題に対する解決の仕方を学ぶことにもつながるが、これを学んで素敵な聖職になってほしい。教役者になることには不安も感じると思う。しかし、その「不安」を大切にしてほしい。「俺は何でもできるんだ」という聖職がいたとしても私には何の魅力も感じない。パウロは自分のこ

とを「月足らずで生まれたようなわたし」と言い、「使徒たちの中でもいちばん小さな者であり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です」とすら言っている。「しかし、働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなのです」(Iコリ15:8-10)と語っている。価値のない、小さな存在だが、神の愛と憐れみに頼って福音を宣言できる聖職になってほしい。

また、マタイによる福音書14章には「五千人の給食」に続いて、湖上を歩くイエスの話が出てくる。そのイエスの姿をみて強風のため漕ぎ悩んでいた舟上の弟子たちは「幽霊だ」と言って恐れるが、ペトロはイエスの方に向かおうとする。それに応じてイエスは「来なさい」と言い、ペトロも舟から降りて水の上を歩きイエスのもとへと進む。しかし強風に怖くなり沈みかけたので「主よ、助けてください」とペトロは叫ぶ。私にもこのペトロのような体験が思い当たる。イエス・キリストだけを見つめて歩けば湖上を歩くことができる。しかし、強い風に怖くなり歩けなくなる、ということが私たちの体験の中にも多いのではないか。あなた方が困った時には教区主教も神学校の教師たちも助けるだろう。しかし、いつまでも助けてくれるのはイエス・キリストだけである。主に向かって「助けてください」と叫ぶことをおぼえて、こ

のウイリアムス神学館を離れてほしい。そして、イエス・キリストと共に働こう！
——こうして説教壇から神学館を巣立つ二人に祝福と励ましの言葉が語られ、式は授与式へと入っていききました。

礼拝終了後は教区センターへと場所を移し、祝会が行われ、美味しいお食事と飲み物を囲んで、楽しく祝福と感謝に満ちたひとときを皆で過ごすことができました。
ヒューム神学生、永野神学生、ご卒業、ご修業、本当におめでとうございました。



神学館での学びを終えて

〜お祈りに支えられて〜



大阪教区の神学生ヒューム ユーワンと申します。私は3年前にウイリアムス神学館に入学して、神学の勉強を始めました。以前、私は科学者として勤めており、神学の専門家ではありませんでしたので、殆ど初心者のようなものでした。しかしながら、その3年の間に、ウイリアムス神学館の教授の指導の下で学びましたので、多少は神学の知識を得たと思います。私はイギリスで生まれ育ちましたので、他の神学生の方達とは違う文化的な背景を持っていますが、寮での生活は良い経験でした。

ウイリアムス神学館の神学生の人数はあまり多くはないですが、私は一対一で授業を受けたことがあります。そして、私はギ

リシア語Ⅲの授業の中で七十人訳聖書を勉強することができました。その勉強のおかげで、新しい世界を知る事ができました。

4月より、私は堺聖テモテ教会及び恵我之荘聖マタイ教会にて勤務し、桃山学院教育大学及びプール学院短期大学に向向することになりましたので、将来の働きをとっても楽しみにしています。特に、私は聖書学に強い関心がありますので、人々に聖書を紹介したり、聖書研究をしたりすることもできると思います。

今後も、皆様のお祈りに支えられて歩んでいきたいと思えます。

(大阪教区 聖職候補生

ヒューム ユーワン)

ウイリアムス神学館での2年の学びを終えて、無事修業の時を迎えることができました。神学館での生活を振り返った時、とても印象に残っていることがあります。それは、先生方の誠実な姿です。私がどんな稚拙な質問をしても、必ず受け止めてくださる先生。どんなに忙しくても、毎週英書



講読を続けてくださった先生。多くの時間を割いて卒論の指導をしてくださる先生。神学館での学びは知識を得るという意味でも、充実した日々でした。しかし、日々接する先生方の牧会者としての姿から多くの影響を受けたと思っています。4月からは広島復活教会で勤務をさせていただきます。新たな街での新しい出会いが今から楽しみです。一からのスタートですので不安もありますが、何事もコツコツ取り組んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、この2年間支えてくださった皆さま、本当にありがとうございます。実習先で出会った方々、いつも代祷を通して祈ってくださいの方々、皆さんの励ましを忘れることなく、これからの日々を過ごしていきたいと思えます。

(神戸教区 聖職候補生 永野 拓也)

「復活の棟梁」 「ありがとう」ございます！

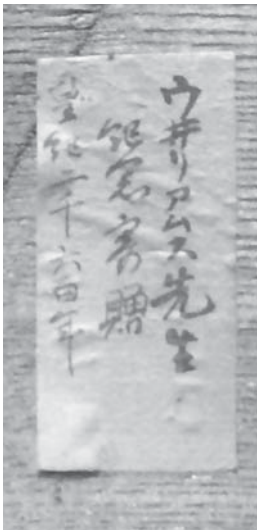


当神学校を象徴するニコルス館には、創建当時のままの備品が数多く現役として活躍しています。玄関入ってすぐ右側の食堂の椅子もその代表的な一つでしょう。さすがに長年の使用でガタつくものも多いのですが、椅子をよく見るとし字や丁字の金具で補強されています。時代ごとに修理を重ね使われてきたことが分かります。そしてガタつきを感じるたびに、そのうち直さなきゃ、と思いつつ、業者さんに頼めばお金もかかることでもあり、何年も過ぎたのでした。ところが、今年に入って思わぬ形で「救世主」が現れました。京都復活教会信徒、岩間邦男さんです。持ち前の木工技術で、これまで復活教会関係の備品等を修理して来られ、いつしか同兄は「復活

の棟梁」と呼ばれるように。棟梁は、昨年この「神学館ニュース」発送作業の折、この椅子たちに目が止まり修理を申し出てくださいました。そして一、二脚ずつ、一年ほどをかけて直してくださることとなりました。その第一弾の完成品を持って、去る1月26日、ニコルス館においてくださいました。補強用の金具は全て外され、部材同士が本来のほぞとほぞ穴とにしっかりと組み込まれているだけでなく綺麗に塗装もしてくださいました(写真右上・修理の様子を説明している岩間さん)。なお椅子の座面裏を見ると次のような古いラベルが貼られていました(写真左)。そこには「ウイリアムス先生 ○○寄贈」とあるのですが、達筆すぎて「○○」の部分が分かりません。お判りになる方はどうぞ当館までお知らせください。

「復活の棟梁」、本当にありがとうございます。岩間さん、これからもどうぞよろしくお願いたします！

神学館はこのような方々にも支えられています。



今さら聞けない!? キリスト教講座 2018

2018年度の今さら聞けない!? キリスト教講座は勝村弘也先生から旧約聖書を学びます。難しく感じることの多い旧約聖書ですが、その豊かな世界を一緒に学んでみませんか。4月21日(土)から開講します。教室での受講の他に、ネットでの受講コースもあります。ご自宅のパソコンなどで、授業の様子を動画で見ながら学ぶ事が出来ます。年間10回の授業を予定しています。どうぞお楽しみに。

神学館の3学期

- ☆1月8日(月)、入寮日
- ☆1月9日(火)、リトリート
- ☆1月10日(水)、3学期授業開始
- ☆1月14日(日)、他教派礼拝出席
- ☆1月20日(月)、歓送迎会
- ☆3月6日(火)～10日(土)、試験・レポート提出期間
- ☆3月11日(日)、3学期教会実習終了
- ☆3月13日(火)～14日(水)、補講・面接
- ☆3月16日(金)、卒業修業礼拝
- ☆3月17日(土)、出寮日